

北斎かわらばん

北斎館(仮称)ニュース

第2号

平成20年(2008年)9月発行



『すみだ』と『北斎』

― 北斎の描いた

『すみだ』①―

三囲神社

世界的に有名な画家の葛

飾北斎は、現在の墨田区亀沢付近で生まれ、生涯の大半を過ごした、『すみだ』の様々な風景を描いています。

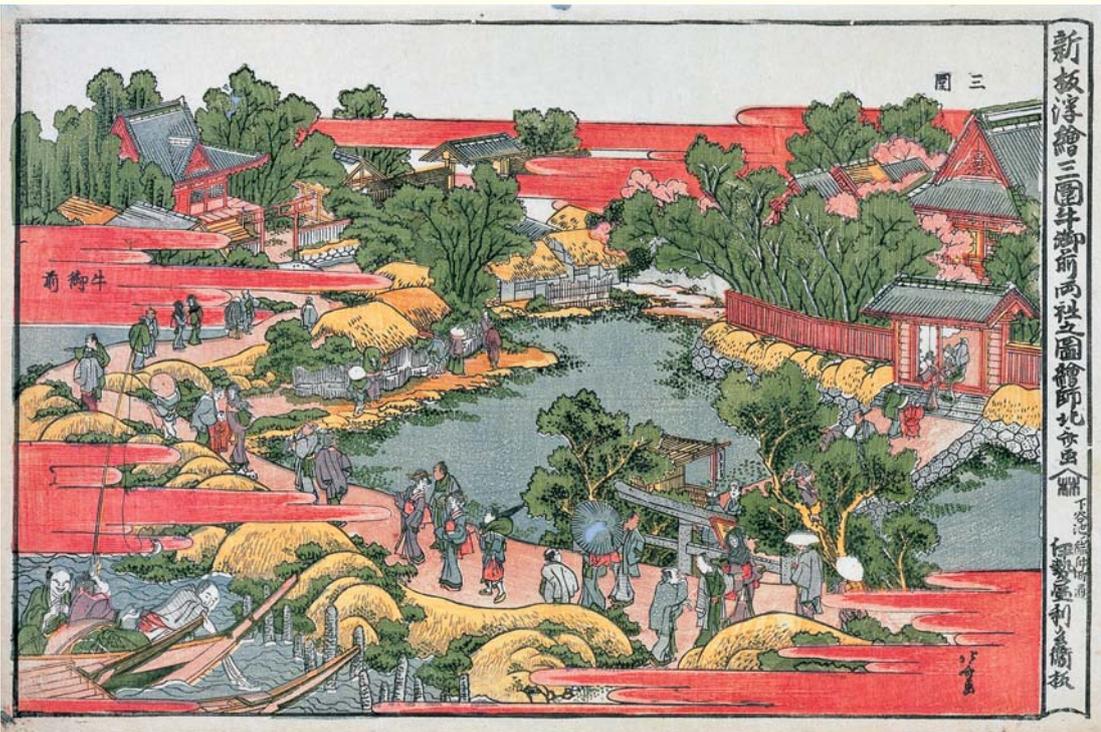
区内にある三囲神社と牛御前(牛嶋神社)がひとつの図に描かれた「三囲牛御前両社乃図」は、版元・伊勢屋利兵衛から板行された「新板浮絵」シリーズの一枚です。全部で十数点の存在が確認されています。

浮絵とは西洋の遠近法を採り入れた浮世絵技法のひとつで、手前が浮き上がって見えることから名づけられました。このシリーズは北斎が五十歳の頃に手がけたものと考えられています。三囲神社は、江戸時代から広く人びとに親しまれた隅田川沿いの名所のひとつ

で、かつては、田中稲荷と呼ばれていました。毎年二月最初の午の日は稲荷社の縁日。初午の祭り。多くの参詣客が訪れました。江戸時代、社寺ではこの

ような毎年のお祭りのほかに、開帳も頻繁に行われており、京都・大坂や江戸には日本全国から多くの参詣客が集まったようです。

三囲神社では寛政十一年



「新板浮絵三囲牛御前両社之図」～ピーター・モース・コレクションより～

(一七九九年)の開帳が特に盛大だったと伝えられ、たくさんのお参り客が納められました。その中には当時四十歳の北斎の筆による作品も含まれており、現在、所在は不明ですが、箱提灯十二張と「白雨雷鳴の図」と題された絵額であったと記録に残っています。箱提灯は、絹地を張った提灯に十二ヶ月を題材にした絵が描かれており、その絵は見事で並ぶものがなかったといえます。また「白雨雷鳴の図」は、蚊帳の中で雷におびえる数人の女性を描いたもので、絵額に襦子で作った蚊帳を掛けて展示するなど、趣向がこらされていて面白く、とても目立つたと記録されています。

【発行】
墨田区区民活動推進部
文化振興課
北斎館建設準備担当
☎ 03-5608-6115

【編集協力】
財 墨田区文化振興財団
北斎担当

すみだ

すみだ

北齋館（仮称）整備の 方針と事業展開

墨田区が開設を計画している北齋館（仮称）は、生誕の地がつくる美術館として、整備の方針を次のように定めています。これを基本に、収集保存事業、展示事業、情報提供事業、教育普及事業等を展開し、いつまでも魅力にあふれ、地域の皆さんを始め世界中の方々に愛され続ける施設づくりに取り組んでいきます。

●●北齋館（仮称）整備の方針●●

- 地域文化の継承と発展の場として、地域とのつながりを重視した、息の長い施設づくりをめざします。
- 研究成果を事業に活かすことで、常に新しい北齋像をわかりやすく紹介し、集客に結びつく斬新な企画を提供します。



「牡丹と胡蝶」～ピーター・モース・コレクションより～

北齋まつり 二〇〇八 開催！

第三回「北齋まつり」（北齋通りまちづくりの会主催）が、十一月八日（土）を中心に、区内の北齋通り周辺（亀沢一〜四丁目）で、開催されます。詳しくは、表面の文化振興課北齋館建設準備担当までお問い合わせください。

世界に誇る

ピーター・モース・コレクション

美術館のすべての事業の基盤となるものが、コレクション（収蔵作品）です。本区の北齋館（仮称）の収蔵作品のうち特筆すべきものとして、世界有数の北齋作品収集家であり、また研究家でもあった、故ピーター・モース氏（一九三五〜一九九三年）のコレクションがあります。このコレクションは、研究を通して培われた確かな鑑識眼によって精査された、質の高いものとして定評があり、欧米における北齋の個人収集としては、最高最大のものとして、世界中の美術関係者に知られてきました。

平成五年のモース氏の急逝後、そのコレクションの散逸を惜しまれた御遺族が、本区の北齋館（仮称）計画に理解を示され、本区が総数六百点に近い北齋作品等を一括取得しました。その後、平成十六年には、墨田区有形文化財として登録され、現在、墨田区文化振興財団による調査研究が進められています。その成果として平成二十一年春には、当コレクションの図録が発行される予定です。ご期待ください。

本号で紹介している版画三点もこのコレクションの中から選んで掲載したものです。



富嶽三十六景 甲州三坂水面（こうしゅうみさかさすいめん）